

海外安全対策情報  
(令和3年度第2四半期)

在エチオピア日本国大使館

1. 社会・治安情勢

第2四半期(令和3年7月～9月)の情勢は以下のとおり。

(1) ティグライ州、アムハラ州及びアファール州

令和2年11月4日に発生したティグライ州における武力衝突については、ゲリラ戦の様相を呈し始め、同州内全域において断続的な衝突が続いている。6月28日にTPLF/TDFが州都メケレを占拠し、連邦政府は、TPLF/TDFに対して「一方的人道的停戦」を宣言した。同停戦発表後も、TPLF/TDFはティグライ州からアムハラ州及びアファール州へ活動を展開し、同州内において国防軍・アムハラ州部隊との衝突が断続的に発生している。8月5日、TPLF/TDFはラリベラを占拠した。8月10日、政府は国防軍、州特別部隊及び民兵に対しTPLFの破壊活動を阻止するよう指示し、国民に対し、国防軍、州特別部隊及び民兵への参加を求める声明を発表した。9月9日、国防軍はTPLF/TDFがアファール州から撤退したと発表した。その後も衝突は継続し、IDPsの急増や人道支援が必要な国民に支援が行き届かないなどの問題が発生している。

6月25日以降、アディスアババーメケレ間の商用便が運行停止しており、同28日以降、ティグライ州においてインターネットが停止されている。

(2) 首都アディスアババ

通行人に対するひったくり、通行中の車両を停止させて気を引いた際に車載品を窃取する盗難事件、アパートや民家に対する侵入窃盗事件が頻発している。市内で違法銃器や現金が押収され、その容疑者の中にはTPLF関係者と疑われる者も含まれており、北部の衝突の影響が首都においても排除できない状況。

7月及び8月には国防軍支持のデモ等が複数回行われた。また、情勢の変化、政府声明発表等に伴い、警戒体制が強化され検問等が実施された。

(3) 地方の情勢

ア ベニシャングル・ Gumz州

Gumz系民族と思われる武装勢力がアムハラ系民族や通過車両を無差別

に襲撃する事件が多発しているほか、治安部隊との衝突により、多数の死者や避難民が生じている。7月には、同州メテケル地区においても武装集団による襲撃事件が発生し、子供を含む31名が死傷、30名以上が行方不明となる事件が発生している。

#### イ オロミア州

西部ウェレガ地域（西ウェレガ、東ウェレガ、ケレム・ウェレガ及びホログドウル・ウェレガ）及び南部（グジ県、ボレナ県）においては、依然として武装集団による襲撃事件や治安部隊との武力衝突が頻繁に発生している。7月、東ウェレガ地区では大量の弾薬が押収されるとともに5名が逮捕され、ケレム・ウェレガ地区では地方政府関係者が武装集団に殺害される事件が発生した。

なお、6月中旬頃から、ジンマ県や北シェワ県においても武装集団の活動が確認され、同集団と治安部隊との間で衝突が発生している。

#### ウ アファール州とソマリ州の州境一帯

アファール系民族とソマリ系民族の間で激しい衝突が長期間にわたって発生している。同所近辺は両民族の居住地が混在しており、6月の総選挙の選挙区選定が新たな火種となって衝突が激化している。

### (4) 第6回エチオピア総選挙

6月21日の投票日は、投票箱の窃盗・投票所の襲撃などの事件が発生するも、多数の死者が発生するような大きな事件が発生するはなかった。9月30日、治安上の理由等で6月21日に投票が行わなかった選挙区のうち、ソマリ州、ハラリ州、及び南部諸民族州の一部選挙区の投票が予定されているところ、投票日前後の治安悪化が予想される。10月4日、人民代表議会が招集され、新政権が樹立する予定である。

## 2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地における主な手口は以下のとおり。なお、外国人を狙った複数名による首絞め強盗や、歩行中の外国人を狙った窃盗事件が特に多発しているため、徒歩での外出は極力控え、特に早朝夜間は近距離であってもタクシー等を利用することが望ましい。また、車両乗車中は確実に施錠し、安全が確保できない限り降車しないこと。降車する場合は周囲の安全を確認のうえ、貴重品を確保し、隙を作らないことが重要である。

### (1) 強盗事件

この四半期における邦人被害はないものの、アディスアベバ市内においては引き続き強盗事件に対する警戒が必要。過去には早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首を絞められ、抵抗できない状態に追いや

られ、携帯電話や財布を強奪する手口が多く発生している。

#### (2) 侵入窃盗事件

アディスアベバ市内の、特に外交団や外国人の住宅（マンション含む）への空き巣被害が増加している。塀のある戸建て住宅であっても、外壁沿いの電柱等から容易に侵入されるケースがある。マンションにおいては、複製された鍵又はマスターキー使用と思われる空き巣事件が多発している。新規に入居した場合は錠を付け替えることが望ましい。エントランスに警備員が配置されていたとしても、知人を装う等の方法により容易に侵入できる場合がある。また、夜間住人が就寝中に窓から侵入する忍び込み事件なども発生しているため、アパートの場合はできるだけ高層階を選ぶなど選定には十分な配慮が必要である。

#### (3) 歩行中の窃盗事件

アディスアベバ市内において、スリが横行している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕を掴む等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者の胸、ズボンのポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。

#### (4) 車両乗車中の窃盗事件

アディスアベバ全域において、車両運転中の外国人に対して車の不具合などを指摘して降車させ、気を引いている間に別の者が車載品を窃取する手口が増加している。また、渋滞で停車中の車両のドアやトランクを開けて携行品を窃取する等の手口が横行している。

#### (5) 暴行事件

5月下旬頃から、「外国による内政干渉は必要ない」と主張するデモが外交施設を対象に実施され、「エチオピアでは外国人は歓迎されていない」と、早朝出歩いていた外国人がエチオピア人に襲われる事件が発生した。

### 3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

#### (1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

#### (2) 強盗等

8月、徒歩で移動中に真横に車が停車し、唾を吐きかけられ、服についた唾を拭っている間にスマートフォンが窃取される事件が発生。9月、徒歩で移動中に服に唾を吐きかけられ、服についた唾を拭いている間に財布を窃取される事件が発生。

4. テロ・爆弾事件発生状況

上記1(1)～(4)のとおり。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

特になし。

7. 対日感情

新型コロナウイルス発生当初は日本人を含む外国人に対する風評被害が広がった。現在対日感情は落ち着いているものの、外国人に対し、突如罵声を浴びせるなどの事案が散見される。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

多くの日本企業関係者が新型コロナウイルスによる一時帰国から帰任し、事業を再開しているものの、ティグライ州における武力衝突以降、エチオピア各地において治安上深刻な影響が出ている。

ティグライ州においては深刻なインフラの破壊が懸念されており、経済活動が正常に戻るまでには相当な期間を要すると見られている。

当面ティグライ州はもちろんのこと、エチオピア全土における治安の推移を注視するほか、これまで以上に情報収集を徹底し、治安の急激な悪化やそれに伴うインターネット遮断などの事態に備える必要がある。

また、9月7日、当地保健省は当地におけるデルタ株の流行を発表しているところ、引き続き新型コロナウイルス感染予防策を講じる必要がある。

9. 在留邦人・旅行者の安全対策

(1) 徒歩移動時の防犯対策（可能な限り徒歩移動は避ける。）

ア 早朝・日没後の徒歩移動は避ける。

イ 貴重品を容易に窃取される収納場所（ポケットなど）に入れて持ち歩かない。

ウ 目立つ格好をしない。

エ 常に周囲を警戒し、危険を感じた場合にはその場を離れる。

(2) 車両移動時の防犯対策

ア 走行中・駐車中は必ず全てのドアを施錠し、特に停車中は窓を開けない。

イ プライベートドライバーを雇用している場合は、駐車中の安全管理をさ

せる。

ウ 定期メンテナンスを励行し、走行中の故障を防止する。

(3) 地方出張・旅行

あらかじめ、外務省海外安全ホームページ上の危険情報を確認する。当地情勢は流動的であるところ、例えば危険レベル1が必ずしも安全でない場合もあるので、最新の情報を大使館の警備領事班へ確認する。

(4) その他

市内において、しばしばデモや集会が実施されるので、その場合には道路封鎖地域及び群衆に近付かないなどの安全対策を講じる。市内の検問が強化されているので、不要なトラブルを避けるため、身分証明書（ID・旅券等）を携行し、夜間及び早朝の外出を控える。